

講演：青森市役所庁舎建替事業について
(2014.1.18 於青森市)

基本的認識

1. 市民サービスのためのワンストップ窓口配置を検討する。
駅西と浪岡に総合窓口を設置し、その他の支所、コミュニティセンター、市民センターの業務を受実する。
2. 中心市街地に市役所本庁の現在地を含める。
バス路線再編（国道4号が中心軸となる）、まちなか居住誘導エリアの双方から、現市役所の位置は重要。
3. 国道4号の混雑は駐車場の容量増大と出入りのための側道設置で緩和できる。
4. 現市役所の位置から操車場跡地まで数百メートルしかなく、将来そこが大きな拠点として育成されれば、そこと市役所の現在地、県庁周辺、アウガ、青森駅周辺、ウォーターフロントまで、は地域的連携が取れることとなる。
5. 整備に当たってはPFI/PPPの導入を検討する必要がある。コンビニ、こども園、デイサービスなどの施設を併設する必要がある。

講演要旨

みなさま今日は。本日は大変な会合にお招きに預かり、大変光栄ではありますが、問題の大きさを考えますと少し気が重くなっております。とはいえ、50年近くもまちづくり一筋で参りましたので、そのような観点から持論を展開させていただきます。よろしく申し上げます。

先ず初めに青森市の発展についてでございます。人口が少しずつ減っていくのは仕方のないことでございます。人口問題研究所などの長期予測によれば、我が国の中でも青森県と秋田県が一番人口の減る県になっておりまして、今後30年間に県人口が30%くらい減ってしまうことになっております。県都である青森市はそんなことはなく、多分少し減るくらいで推移するのでしょうか、また、そうしなければならないと思います。といたしますのは、地域経済の発展はやはり人口の集中なのです。例えば、30万人がばらばらに住んでいれば大学さえ作れませんが、通勤・通学圏内に30万人が住んでいれば大学はもちろん、たくさんの経済活動が成立するのです。それだけ雇用が増えることになります。ですから、青森県は青森市とか弘前市、できればむつ市や五所川原市も大いに人口を集めてほしいのです。

次に、青森市の都心部について、私の印象を申し上げます。その昔、青函連絡船で北海道に渡っておりました頃は船の欠航などもあり、青森駅周辺が国家的拠点でした。しかし、今では東京や関西からの多くの旅行者が飛行機で北海道に行ってしまう、近くにお住いの皆さんも青函トンネルで渡ってしまいます。青森駅周辺は昔のことに思いを馳せる郷愁の場になってしまったのです。

そこで青森駅西口に市役所を持っていきたいという発想が出てきます。当然のことです。しかし、私はそれに反対です。何故ならば、市役所はなるべく目立って、交通の便が良く、災害の危険が少ないところで、かつ、周辺市街地となじめる所に立地すべきなのです。そういう観点から現在の市役所の場所と青森駅西口とを比較してみますと、現在地であれば国道を通る何万台もの車の人たちが毎日見てくれますし、地盤の標高は駅西口をほとんど同じですが、周辺には公園、

ホテル、寺院などもあって、将来、鉄道ヤード跡地が開発されればそこへも歩いて10分くらいで行けるのです。冬場は車でしょうけれど。一方、駅西口は東側を鉄道でふさがれ、北側は海であり、西には県営住宅が、南には普通の住宅地が広がっております。高層ビルを建てれば拠点は作れるでしょうけれど、周辺の商業、業務市街地は形成されにくいのです。市役所周辺にはいろいろな商業、業務活動が発生して、雇用を最大限増やすことが得策なのです。

駅西口は鉄道の便があり、浪岡方面からの便利が良いのですが、むしろ浪岡には総合支所を作って、そこで何でも済ますことが出来るようにすべきではないでしょうか。また、仮に鉄道で駅西口まで来ていただいたとしても、そこに市役所の本庁を置く必要な無く、県庁の窓口と一緒にした市の総合窓口を置いておけばいいのです。

次にバスの便です。まずは青森駅、県庁、市役所の現位置、その他の拠点をワンコインバス（1回100円）で結ぶべきです。多くの都市ではこれをマイクロバスで、必要があれば公的な助成金を入れてやっております。市民のための交通と食糧の確保はローマの昔から皇帝の仕事なのです。ですから、ここでは市民バスについて市が積極的に考えなければいけません。敷地の前面の駐車場出入口とは別の所にきれいなバスターミナルを作る必要があります。ここからはオンデマンドバスを含んで、市内の主なところにはどこにでも行けるようにすべきです。

今から30数年前までは新町2丁目に長距離バスターミナルがありました。これもどこか、できれば国道柳町の近辺で復活させたいものです。ここであれば青森中央インターまで数分しかかかりません。

青森駅から国道柳町までは約1.5kmです。この区間が青森の都心再生で最も基本となる軸であるべきで、その軸の両端に青森駅と市役所がある。そのような構図が地域の活性化に最もふさわしいのです。両端に核店舗を持った商店街は強いのです。雪がないときにはこの間を気ままに歩けるような空間があると良いですね。ニワトリと卵のお話にはなっていますが、そのような空間を作っておけば長い間に都市機能も変わってくるのです。

おわりに福祉のお話です。少子高齢化の社会ではどうしても高齢者に対する福祉と子育て支援を考えなくてはなりません。その観点からは交通が便利な市役所の敷地の一角に、デイサービス施設とこども園は欠かせないのではないのでしょうか。一人暮らしの高齢者、働く女性の子育て支援。これらは都心部になくはならないものです。駅西口と現市役所周辺と、2ヶ所にあっても良いかもしれません。

以上、勝手なことばかり申し述べましたが、新しい市役所庁舎は是非とも現在地でお決めになることをお勧めいたします。